

くるみ

THINK & TALK
神道画の魅力と力
講中を訪ねて



ごあいさつ

年頭にあたりまして、謹んで皇室の弥栄と国家の安泰、氏子崇敬者の皆様の平安をお祈り申しあげます。

昨年、伊勢の神宮におかれましては、十月二日に内宮、続いて五日に外宮と遷御の儀が執り行われました。遷宮は神宮が所管するすべてのお社を造り替えるまで続きますのでまだ終わった訳ではありませんが、一つの区切りとして、内宮、外宮の遷御が無事執り行われたということは悦ばしいことです。大神様の甦りとともに、日本が陽の昇る国家への道を再び歩むことを期待します。

さて、大きな被害をもたらした東日本大震災から、もうすぐ三年の月日が流れようとしています。笠間稻荷神社も甚大な被害を被りましたが、皆様に神社再建の為、尊い御浄財をお寄せ頂きましたお蔭をもちまして、玉垣の補修、壁面の補修等、多くの修繕を終えることができました。改めまして感謝申し上げます。これからは、皆様に心配頂いております、鳥居の建立に臨むこととなりますが、無事全ての復旧が終えますまで、皆様には変わらぬ、ご協力、ご指導を頂きますようお願い申し上げます。

本年は午年、また、六十年に一度の甲午の年であります。前回の甲午の年は一九五四年、高度経済成長期が始まった年だそうです。日本経済も力強さを取り戻し始めているやのように見える昨今、あのころのような勢いを日本が取り戻せることが出来るかどうか、我々日本国民の力の見せ所といったところででしょうか。また、折り返しを示す千支でもあります。内宮、外宮の遷御という、神社界にとって、日本という国家にとって、重要な御祭りが終わり、日本という国が再生していく折り返し地点としてふさわしい年であります。皆様にとって、本年が素晴らしい年となりますようご祈念いたしまして、簡単ではございますが、年頭のご挨拶といたします。

笠間稻荷神社 宮司 塙東男

笠間稲荷神社復興奉賛会



未曾有の大震災より二年半が経過し、ご崇敬者皆様のご協力により復興工事も順調に進み、ようやく元の状態に戻りつつはありますが、この事業は多大な資財を要し、未だ完全復興には至らず、目標とする奉賛額にも達してはおりません。

皆様の信仰の場として一日も早い復旧、復興が出来ますよう、全国ご崇敬者皆様の心からなるご奉賛を仰ぎたく、格別なるご支援とご協力をお願い申し上げる次第でございます

◎ご奉賛について

一、皆様からの奉賛金は確定申告をする事により財務大臣が指定した「指定寄附金」として、所得税や法人税の優遇措置が受けられます。

一、ご奉賛は、ご参拝のおりか郵便振替、指定取扱い銀行振り込みのいずれでも結構です。

一、ご奉賛戴きました際には、早速大神様にご報告申し上げ、芳名簿に記し、ご神前に献納致し永く顕彰致します。

◎募集目標金額

三七三、二六一、〇〇〇円

◎振込先のご案内

郵便振替の場合

口座記号番号

〇〇一三〇・二・五九六一二四

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

◎指定銀行振込の場合

常陽銀行笠間支店

(普)一五〇六四四八

宗教法人笠間稲荷神社復興奉賛会

指定寄附金 代表役員 埴 東男

お問い合わせ先

笠間稲荷神社 復興奉賛会

TEL 〇二九六一七三ー〇〇〇一

第28回

神道画の魅力と力

日本画家／鳥居 禮氏
笠間稲荷神社 宮司／塙 東男

目に見えぬ 神々の美しさを世界へ

**横山大観・木村武山
ゆかりの地で展覧会**

塙 この度は笠間稲荷美術館特別展「第六十二回神宮式年遷宮記念 鳥居禮展 神々と神話」を開催でき、多くの方々にご鑑賞いただきながら無事終えられましたことに感謝申し上げます。

鳥居 笠間稲荷神社は、私が若い頃から学ばせて頂いた、横山大観先生や木村武山先生とゆかりの深い神社ですので、私もこの場所で開催でき、私自身もこのことを、誠に有り難く存じております。以前神社を参拝させて頂き、美術館を案内して頂いた際に、ぜひ一度この立派な美術館で展覧会を開かせて頂きたいと思っております、その念願を叶える事ができました。

塙 当社と致しましては先生の

作品を展示公開させて頂くことで、第六十二回の神宮式年遷宮のPRにつながればと思います。特別展の開催に至りました。平成十七年の山口祭に始まりその後八年間に渡って三十にも及ぶ御祭が斎行された遷宮でございます。それらの祭典や行事に先生が実際にご参列になり、描かれてこられた作品の一部を展示させて頂き、ご覧になられた皆様に遷宮の尊さ、そして厳肅かつ壮大なスケールを感じて頂けたものと確信致しております。また昨年は古事記編纂一三〇〇年にあたり、神道古典の一つである同書を通して神々と神話の世界に触れられた方がたくさんおられました。そのような方達にとりましては先生の作品はよりいっそう味わい深いものとして感じら

笠間稲荷神社 宮司
塙 東男

れたのではないかと思います。

木村武山先生はこの笠間の生まれで、私の祖父である塙嘉一郎と親友でありました。

明治三十九年、横山大観・下村観山・菱田春草・木村武山先生等が天心先生に従い五浦にて絵の研究をされますが、先生方が東京の行き帰りに笠間に寄られ、神社で席画会が行われたそうです。



鳥居先生は神道画家の第一人者であります、何故この道を志されたのでしょうか。

タブーを破り 神道画の道へ

鳥居 私は若い頃から神道の美を描きたかったのですが、当時はまだ神道といえど戦争というような考えが多い時代でしたので、みな神道に触れることを避けていました。しかし、西洋美術史ではタブーを破ることが歴史的画家の特徴でした。タブーを破ろうとすると当然孤高の道を行かなくてはなりませんが、全く平気でした。それは、横山大観先生が仰つたように、孟子の「自ら反みて縮くんば、千万人と雖も、吾往かん」という言葉のような雄々しい気迫、士気が絵に込められているかが日本画の場合重要と考えていましたし、無謀にも江戸以前の日本絵画のすばらしさを自分が継いでいかなくてはならないと思っていたからです。そして具体的に何を受け継ごうかと考えたところ、ご皇室を根源とする日本の伝統的な美しさを広め、自然と一体の温かみのある絵を描きたいと思うようになり、さらに日本の美術、文化を探求していくと神道、神社に行き着きました。そして

二十七歳の頃、保田與重郎氏の『日本の美術史』の巻頭の口絵に神宮の御敷地の覆屋の写真が載っており、その見たことのない、気が充満したような空間の凄さに感動しました。

埴 神道を描くということがタブーというのは、神道や祖先、神様の御霊に対する日本人の畏れ多い気持ちからきているのだでしょう。神道という慎みの心です。仏教では仏像を人前に見せませんが、神道では御神像はやたらに見せません。このような気持ちから神社の祭事などを描いたり写真に撮ったりはしなかったのでしょう。神様を描くということにあたり、どのようなことを意識されていますか。

鳥居 常に心を穏やかに保ち、幸福感を感じることです。また画室を清浄にして庭を整えるということも実践しています。また、神話の世界は装束の資料が残っており、せいぜい残っている弥生時代ですので、あとは想像に任せるしかありません。古代の雰囲気を出すためには、縄文時代や旧石器時代まで意識を飛ばして描かないと神様には近づきできません。そういう要素を出すことが出来るかどうか。浅学ながら神様は光に満ちたキラキラしたものであり、エネ

ルギーに満ち溢れ、初々しく清らかで美しい、まさに神道の思想そのものというイメージが私の中にあります。そういった要素を出すことが出来れば、神様の温かさを表現出来ると思います。理想としては飾ったときに部屋がパッと明るくなるような作品を描きたいですね。

埴 私はこの特別展の中で「倭姫の祈り」という作品に感銘を受けました。この作品からは、倭姫命が天照大御神の御杖代となつて、大神の鎮まるべきところを求めて各地を巡幸し、伊勢の地まで導いてこられたご苦労と、神に対する「祈り」の深さが伝わってくる共に、先生の神道に対する直向きな思いが感じられます。

鳥居 この作品は、神宮齋主であらせられます池田厚子様が、祭の際に長時間に渡り真剣に祈りを捧げられておられる姿を参考にさせて頂いており、国家の安泰・皇室の弥栄を願われる深い「祈り」を表現しております。

埴 また、新たに当社の御祭神である宇迦之御魂神の図像を

鳥居 禮氏 Rei Tori

日本画家。昭和27年東京生まれ。武蔵野美術大学において日本画や民俗学を学ぶ。27歳の頃、伊勢の神宮の御敷地に感銘を受け、神道画を描き始める。全国各地で個展を開催。平成12年茨城県南の日本画作家展(つくば美術館)、15年日本の校展(島田博物館)、18年鳥居禮展(河口湖ミュージ)、21年～23年鳥居禮展(小国神社)、22年日本の美・霊峰富士展(三嶋大社)、23年遷宮絵画展(神宮徴古館)、25年鳥居禮展～神々と神話～(笠間稲荷美術館)などを開催。また、平成19年にはウクライナ国立美術館で邦人初となる個展を開催。ウクライナの新聞4紙に一面で取り上げられ話題を呼ぶ。特に伊勢神宮に関する作品を多く制作し、平成20年から4年の歳月をかけ、神宮式年遷宮諸祭画を30点作成、「豊受大神宮正殿の図」と共にせんぐう館に収蔵し、神宮崇敬会より表彰される。また、平成25年神宮式年遷宮遷御の儀にて内院庭燎所役に任命される。他にも平成14年大円寺の四季襖絵作成、16年諏訪大社上社「林図」収蔵、22年三嶋大社「三島の富士」収蔵など神社、仏閣において多数の作品を描く。平成27年秋にはエストニア国立博物館にて個展開催予定。





描いて頂きました。

鳥居 拙い知識ですが、宇迦之御魂神は日本文化の元となる稲作と深い関わりが

あり、大切な神様であるという認識のもとに描かせて頂きました。宇迦之御魂神の図像はあまり残っておりませんので、それらの少ない資料を参考に致しました。また、それらは少しお年寄りでしたので、今回は若々しいお米の生気に満ちた感じにしたいと思いました。眷属であるお狐様は皆様に喜んで頂けるように、目に力を入れ可愛らしく描きました。

塙 先生の作品を拝見させて頂いた中で、若い世代を意識されて描かれている物があるように感じました。

鳥居 美術によりお年寄りから子どもまで、多くの方を神の道に誘うということが私の使命であると思います、特に若い方々も味わやすい表現を心がけております。

塙 神道は古典の中に神々の道をさぐり、私達の生き方の指針としています。先生の作品である神々と神話の世界に誘われた

多くの若者が日本という国や日本人としての美しい姿を改めて見つめ直してくればよりよい社会が作られていくことになりま。今回の笠間稲荷神社での展覧会で、先生のすばらしい絵画に触れられた若い方も心の清らかさや明るさを感じ取ってくれたのではないかと思います。神道の大切な価値観である浄明正直の心をもつて神の道を一人でも多くの人が実践してくれば日本の伝統文化の継承発展とともに理想的な国作りができるのではないかと思います。

第六十二回 神宮式年遷宮

塙 さて、昨年は神宮の二十年に一度の式年遷宮、出雲大社の六十年に一度の御遷宮、また、熱田神宮創祀一九〇〇年など、神社界にとつてまことにおめでたい年となりました。神宮の遷御の儀へは私も参列させて頂き、今年で四度目の参列となりました。

天下第一、二つとない日本の重儀である大きなお祭りに参列させて頂けて、大変有り難かったです。参列中は御皇室の安泰、国民の幸せを祈るとともに、茨城県の多

くの皆様にも御奉賛を頂いたの、皆様のお気持ちに神様にも伝わるように、そんな気持ちで参列させて頂きました。先生は遷御の儀に御奉仕をなされましたね。

鳥居 誠に畏れ多くも私は内宮の新宮内院庭燎所役を仰せつかりました。遷御の儀への御奉仕は、ただただ有難いものでした。美しさや、畏れ多さを一心に感じ、感動致しました。その上、大神様の懷に抱かれているような安心感もございました。印象深かったことは、庭燎のお道具の点検に誰もいない内院に入ったときのことです。真新しい白木の高い瑞垣に囲まれ、雲のようなお白石の中に御正殿がそびえたち、いままでも味わったことのないような幸福感と温かさを体験しました。そこはまるで、天界の御宮を写したもののようには感じられました。日本の美術を深く研究すると西洋と違うのは温かさですね。江戸時代以前の日本の

伝統的な美というのはそういったものではないかと思いました。温かさを描きたいと思ってずっと絵を描いてきたのですが、その時感じた温かさは、まさにそれそのものでした。

今まで私が絵を描くにあたって心がけていた事が、間違ひでは無かったと神様が教えてくださったような気がしました。

塙 それは貴重な体験をなされましたね。

神宮の式年遷宮は今年で第六十二回を迎え、現在まで受け継がれてきた最も大切な御祭であり、国の重要文化財として扱われて然りであると思います。神宮は日本における最高の聖地で、全国の神社の本宗として格別の信仰を集めています。皇室の御祖神であり、日本人の大御祖神である天照大御神さまをお祀りし、私たちの総氏神にあたります。

先生は神宮に対して、どのような思いがありますか。

鳥居 浅学ながら、神宮は古代の理想的な生活をそのまま残し伝えているタイムカプセルのような存在であると思います。御正殿などの建築も、装飾が多少変わることはあるようですが、基本的には変わりません。あの唯一神明造は世界で一番美しい建物であると思います。石造りでは絶対にできない極めて立体的で宇宙的な美しさ、平明でありながら、ものすごく深く曲線も少しある、神社の美の極みだと思います。どこの神社でもそう



だと思いますが、特に神宮では自然と一体で循環システムがしつかりしていて、自給自足であり、昔の形を残すことを厳守しているの、神宮に行くとい日本の理想的な生活を体感できるでしょう。自然破壊が叫ばれる中、世界中が一番必要としていること、今後人間はどのようにまっとうな生活をすればよいのか、そのモデルが神宮にあると思います。神宮は美しさを感じ、心身を整え、見えない神の教えを学ぶ所であり、世界最高の清らかな聖地であると感じます。一番大切なのは、神社とは古儀を継承するものですが、それは未来の為のものだということです。

日本の伝統文化を世界へ

塙 式年遷宮では神さまのお住まいであるお宮を造替えるだけではなく、調度や神宝も新調して新しいお宮にお遷り頂きます。二十一年に一度全てのものが元の通り新しく作られますから、一三〇〇年前の建築や調度、神宝がそのまま現代に再現されます。先生のおっしゃられた通り古代の理想的な生活を残しながら、日本の伝統的な技術や美、精神が瑞々しい命として今日まで継承されてきました。

私ももう何度も神宮にお参りしています。いつ見ても美しい御社殿と御敷地で、心が洗われる感覚を何度も味わいました。一昨年、外宮前に「せんぐう館」がオープンしました。実際の御正殿の御扉をはじめ、外宮御正殿の原寸大模型や渡御の様子をイメージした縮小模型、遷宮の資料や宮大工の道具などが展示されていて、初めて神宮に訪れた方にも興味を抱いて頂ける内容でした。その中に先生が描かれた神道画のコーナーがございました。

鳥居 神宮から思召しがあり、遷宮の諸祭三十三種のうち、三十種を描かせて頂くことになりました。今まで描いたことのない表現がたくさんあり、大変苦労しましたが、とても勉強になりました。神聖で厳肅な祭祀と活力にあふれた神領民の両面を表現しなければいけません。また、五〇〇号の外宮御正宮の絵は描いているときに御正宮の強烈な立体感と宇宙性を感じ、日本人の宇宙的立体表現のすばらしさに感動致しました。せんぐう館で御正殿の御扉の隣に飾って頂いて、本当に畏れ多いことでございます。

塙 御正殿の絵は入口すぐに飾ってあったので、強烈なインパ

クトと共に、御正宮の美しさや清らかさを感じられました。その他の諸祭を描いた絵も厳肅に行われる祭祀の様子がひしひしと伝わってきました。

また、先生の個展である「GALLERY いせのもり」も開店されましたね。どのような思いで開かれたのでしょうか。

鳥居 伊勢の地元で神宮に崇敬の念が深く、塾経営者としても有名な安藤大作さんが、伊勢のすばらしさを私の作品によって伊勢から広め日本を変えましょう、と提案してくださり、そのことがきっかけとなり、二人ともきわめて純粋な思いで始めました。

塙 先生方の伊勢のすばらしさを伝えたいという純粋な思いが込められているんですね。神宮を参詣し感銘を受けた参拝者が、先生の作品をご覧になることで大神様また神宮の美しさを感じ取り、またお参りに来たいと思ってくださることでしょう。

鳥居 伊勢のすばらしさ、つまりは神道のすばらしさを日本人のみならず、世界の皆さんに広めることが、私の目標としていくところなんです。日本の文化が世界に広まる事により、世界がもっと過ごしやすくなるという確信があります。日本語・日本食の

文化はかなり広まりつつありますが、本当の日本美というもののはまだまだ伝わっておりません。平成二十七年の秋にはエストニア国立美術館で個展を開きますが、そこでも神道を通して皆さんに日本の文化が持つ感動を与えられればと思いますし、このことが神社神道のお役に立つのであればとても幸せです。エストニアの皆さんをびつくりさせたいですね。また、茨城県民として茨城県全体や笠間稲荷神社のお役にも立てればと思います。

塙 エストニアでも多くの方々に日本の文化を理解して頂けるとありがたいですね。先生が魂を込めて描かれた神道画を通して、神道や神宮のすばらしさ、日本の伝統文化が多くの方々へ伝えることと信じております。今後ますますのご活躍とご健康を祈念致します。本日はお忙しい中ありがとうございました。



祭事予定一月

一日 歳旦祭

三日 元始祭

五日 鉦始祭

初甲子祭

七日 昭和天皇祭遙拝式

十日 初事比羅祭

十四日 尖閣諸島安全祈願祭

十五日 古札炎上祭

二十二日 御本殿畳表奉納奉告祭

二十五日 初天神祭

三十日 旧大祓式

三十一日 旧歳旦祭



五日 鉦始祭 十時

「木造り始め」とも言い、鉦とは手斧のこと、鉦を以て用材を造り始める儀式です。
大工さんの仕事始めの儀式です。



十五日 古札炎上祭 十時

一年間御守護いただいたお礼や、お守りなどご崇敬者より納められたものをお焚き上げて、その御神恩に感謝しこの一年の無病息災を祈る神事です。
別名「どんと焼き」とも言われます。



祭事予定 二月

三日 節分追儺式

四日 初午大祭

七日 北方領土返還祈願祭

八日 針供養祭

十一日 紀元祭

十四日 祈年祭・初穂講大祭

四日 初午大祭

初午祭は二月の最初の午の日に行われるお祭り、「仕事初め」の日として大切にされています。

祭事予定 三月

十二日 旧初午大祭

十六日 絵馬祭・絵馬炎上祭

二十一日 春季皇霊祭遙拝式

十六日 絵馬祭・絵馬炎上祭

絵馬祭は絵馬に託された皆様の御祈願が成就しますよう祈念する祭典で、絵馬を回収した後、神社境内に於いて絵馬炎上祭を斎行し、拝殿前にてお焚き上げします。

例大祭

四月九日は笠間稲荷神社御創建の日とされ、年間六十ものお祭りが斎行されている中で最も重要な祭典です。

この日は午前十一時に、正装した宮司以下神職、献幣使、献香、献茶を御奉仕いただく各宗匠、氏子総代、全国より招待者が、雅楽を奏でる伶人、舞姫等に先導されながら参進し、お米、お酒、海の物、山の物などを大神様にお供えし、皇室の弥栄、国家の繁栄、世界の平和を祈ると共に氏子、崇敬者、国民の幸福を祈願します。



祭事予定 四月

三日 神武天皇遙拝式

九日 例大祭

十五日 佐志能神社臨時祭

二十九日 昭和祭

昭和祭

「昭和」とは、四書五経の一つ書経「堯典」の「百姓昭明、協和萬邦」より、国民の平和および世界各国の共存繁栄を願う意味から考案されました。

「みどりの日」から「昭和の日」に変更され、「激動の日々を経て、復興を遂げた昭和の時代を顧み、国の将来に思いをいたす」と定められており、当社では、崇敬者のご祈祷に併せて日本国民および世界平和を願い、昭和祭を斎行します。



祭事予定 五月

十日 御田植祭

十七日 講社大祭



講社大祭

全国各地より当社へ団体で参拝される先達講元（崇敬者団体の長）世話人の参列のもと、大神様に世界平和と国家の安泰、そして各講中の繁栄と講員各位の御隆昌を祈願する大祭です。



祭事予定 六月

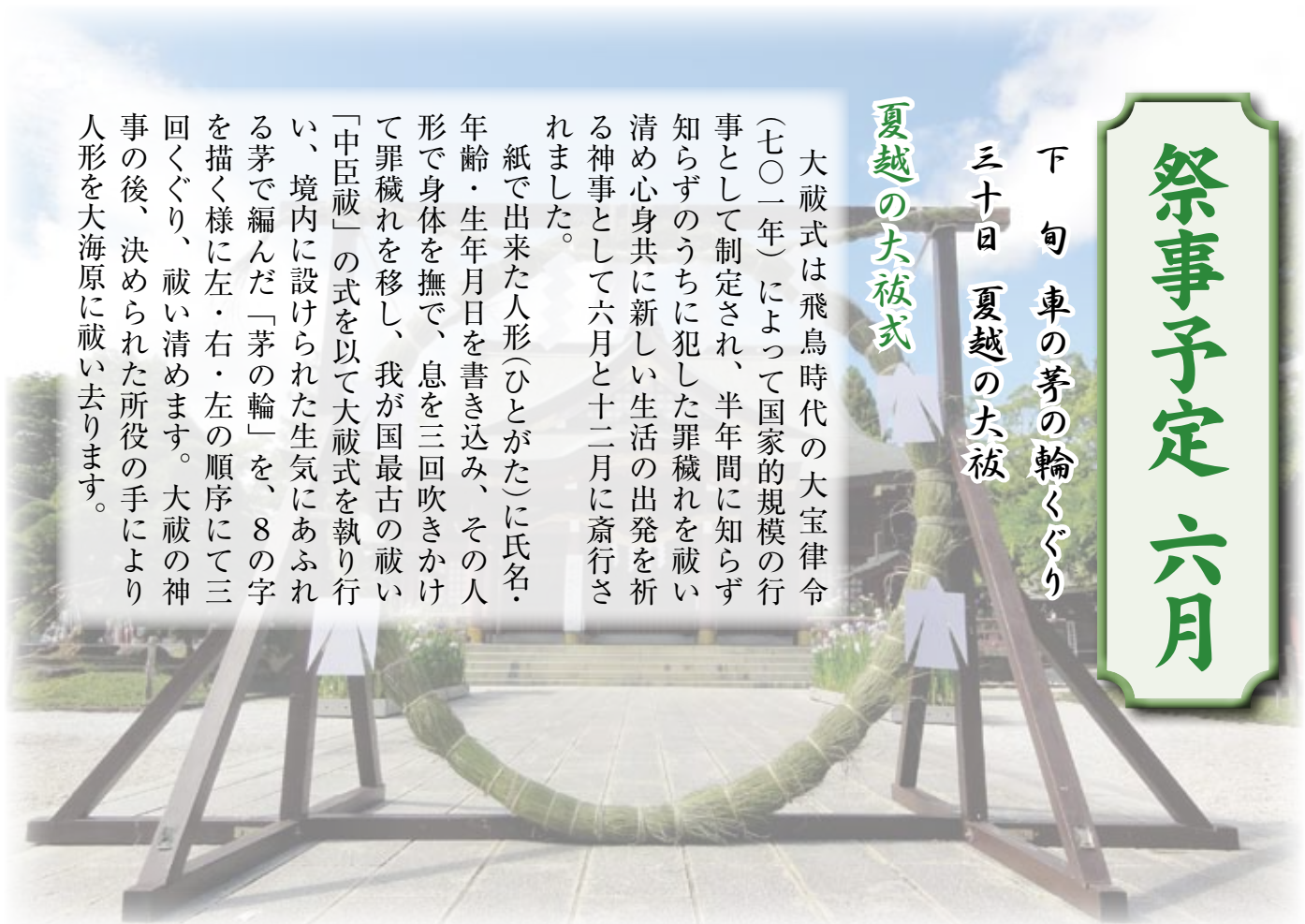
下旬 車の茅の輪くぐり

三十日 夏越の大祓

夏越の大祓式

大祓式は飛鳥時代の大宝律令（七〇一年）によって国家的規模の行事として制定され、半年間に知らず知らずのうちに犯した罪穢れを祓い清め心身共に新しい生活の出発を祈る神事として六月と十二月に斎行されました。

紙で出来た人形（ひとがた）に氏名・年齢・生年月日を書き込み、その人形で身体を撫で、息を三回吹きかけて罪穢れを移し、我が国最古の祓い「中臣祓」の式を以て大祓式を執り行い、境内に設けられた生気にあふれる茅で編んだ「茅の輪」を、8の字を描く様に左・右・左の順序にて三回くぐり、祓い清めます。大祓の神事後、決められた所役の手により人形を大海原に祓い去ります。



笠間稲荷神社日誌



平成二十五年

赤字…祭典
緑字…行事
黒字…講中参拝・正式参拝

◆七月

六日 霞ヶ浦北浦水産加工業組合土浦支部
水神講・松戸鎌ヶ谷木材同業組合
ロータリー財団総括委員長山崎清司様
二十日 笠間稲荷神社敬神婦人会総会
笠間稲荷神社敬神婦人会会長塙菊枝様
二十四日 当社責任役員会・総代会
三十日 末社本殿遷座祭
三十一日 (財)日本相撲協会巡業部千田川順様、
東関大五郎様、振分精彦様
茨城県中央農業協同組合
代表理事組合長川上好孝様

◆八月

一日 本社御田植祭
事比羅祭
末社祭
二日 國學院大學指定実習開始
國學院大學指定神社実習班長藏重昂之様
四日 献燈祭
六日 旧大祓式
十日 筑波山神社権宮司岩佐弘史様
十八日 宇都宮笠間講
二十五日 真岡加波山登山講
二十六日 甲子祭
二十七日 ドイツ連邦共和国ラー市園芸課長ソトル様

◆九月

三十一日 大洗磯前神社禰宜吉田卓史様
國學院大學指定神社実習班長鬼海静玲奈様
稲荷神社宮司伴野健一様



▲献燈祭

八日 東毛敬神講・初雁興業(株)笠間稲荷講・
東京八方講
九日 埼玉丸元講
十日 五丁目友の会
十六日 太田青年会議所理事長倉嶋慶秀様
太田青年会議所OB会様
十八日 鶴澤美枝子様
十九日 中秋祭
二十三日 秋季皇霊祭遙拝式
小笠原流弓馬術礼法奉納式

◆十月



▲小笠原流弓馬術礼法

二日 神宮式年遷宮遙拝式
八日 図画コンクール審査
十日 宮城県神社庁白石市刈田郡支部
支部長佐藤武比古様
白石市刈田郡神社総代会会長佐竹達雄様
国際ロータリー第2840地区
太田ロータリークラブ会長田部井敏弘様
十七日 神嘗奉祝祭
十八日 退職公務員連絡協議会古河支部支部長篠崎泉様
十九日 菊まつり開催奉告祭
菊まつり開場式
鳥居禮作品奉納
國學院大學栃木高等学校父母会
会長廣澤造酒雄様
二十一日 神宮大麻・暦頒布始奉告祭
会津雅楽会会長君島義範様
二十五日 甲子祭

菊花早咲き品評会

二十七日 図画コンクール表彰式

あきる野市野辺八雲神社氏子総代会
氏子会長堀江久仁様
野辺八雲神社宮司小山清様
東京紋三郎講・東京中央講
大河原稲荷神社崇敬会



▲図画コンクール表彰式

二十八日 尚齒祭

茨城県敬神婦人連合大会

茨城県敬神婦人連合会会長塙菊枝様

三十日 講社大祭

十一月

一日 笠間・友部街商組合

東武観光岩槻・番匠免講

菊花中咲き品評会

明治祭

神事流鏝馬

下前笠間稲荷神社講・五辻笠間講・南百笠間講・
三峯山奥之宮神璽講社・松伏地区笠間講・
東京東両国八町睦笠間勇山講・
光和観光サービス東部案内所

四日

寄居笠間講・増森新田講

東京国立講・越谷穀信講

岩手県神社庁東磐井支部支部長藤元修様

神奈川県文化財協会会長八幡義信様

菊花遅咲き品評会

示現流奉納

假屋崎省吾の世界



▲神事流鏝馬

九日

假屋崎省吾の世界



▲假屋崎省吾の世界

かさま落語会

埼玉県トラック協会草加支部・安行笠間講・

築比地笠間講

立野神社宮司戸澤務様

立野神社氏子総代会会長大久保正様

立野神社護持会会長藤田佳史様

大和古流奉納

辻ヶ岡笠間稲荷神社奉賛会

坂東市岩井職工組合

十日

十一日

十三日 匠瑳立身太々講・

安全運転管理協会吾妻地区協議会

十五日 霜月祭

野田市睦講

茨城県人会連合会会長海老沢勝二様

かさま狐の嫁入り

正徳講

舞楽祭

西茨城神社総代会会長徳藏常松様

小松稲荷講・塩原温泉笠間講

当社責任役員会・総代会

熊野速玉大社宮司上野顯様

埼玉県酒造組合中部ブロック

新嘗祭・献穀献爾祭

浦向笠間稲荷講

伝統武術奉納演武大会

川口平和講・船橋大日講

菊まつり千秋楽

十二月

一日 (有)山崎石材店・長須職工組合

明治神宮権宮司宮崎重廣様

茨城県菊花連盟菊花品評会表彰式

茨城県菊花連盟副会長菊池信美様

芸術院会員福田千恵様

刀剣研師佐々木卓史様

ゼリア新薬工業(株)・ロサランド(株)(有)伊部

御火焚串炎上祭

天長祭

甲子祭

サンコー(株)

鹿島祓

大祓式

講

中を訪ねて 笠間稲荷高柳講

当社には古くから「講中」という団体で参拝される崇敬者の組織があります。
地域、血縁、仕事仲間など、稲荷大神様とご神縁を結ばれた様々な講中が
全国各地で活動しています。今回、ご紹介するのは・・・



講元 酒巻 肇

昭和15年生まれ(73歳)
職業：農業 趣味：旅行
自由民主党高柳幹事・明治神宮
崇敬会役員・東葛ふたば農業協
同組合総代

「平成22年、前講元・渡来泉
さんより引き継いで講元に就
任しました。高柳地区は昔から
お稲荷様をお祀りしている農
家が多く、自然と稲荷大神様
を信仰していました。笠間様
の御加護をいただいている家
族も皆健康に過ごしているので、
ひとりでも多くの講員を参
拝に誘い、御神徳を実感して
もらえればと思っています。」

千葉県柏市高柳にお住まいの講元・酒巻肇さんを筆頭に役員十五
名が近隣の方々に広く声を掛け、毎年三月にバス二台・八十名前後
で参拝する笠間稲荷高柳講。江戸時代末期頃、高柳地区に住む渡来
弥右エ門氏が当社を信仰していたことにはじまり、戦前には弥右エ
門氏の分家である渡来敬将氏と名戸ヶ谷地区に住む木村己之助氏が、
高柳講の前身とも言える「名柳講」を結成して笠間稲荷神社へ講参拝
を開始しました。しかし、戦争により講の存続が困難な状況になり、
名柳講はやむなく解散し、個人有志が参拝をしていました。戦後、
参拝者の増加に伴い、渡来敬将氏を初代講元として地域の名前を冠
した「笠間稲荷高柳講」が結成され、今日まで参拝を続けています。
当初は高柳地区の方々だけで参拝していましたが、二代講元・島村
明典氏の時に、親交のあった塚崎地区の森久夫氏に世話人を引き受
けてもらったことがきっかけで、塚崎地区の方々も講に参加するよ
うになったと言います。

現在は高柳地区に十三名、塚崎地区に二名いる講役員が運営の中
心となり、毎年一月に役員会を開催して講参拝後の視察・見学旅行
計画等を練り、各地区に募集をはかっています。参拝後の視察・見
学旅行では笠間焼きの窯元や那珂湊の魚市場、小美玉市の花木セン
ター等様々な場所を訪れており、参加者の楽しみの一つとなってい
ます。また、五年ほど前から地域の老人会にも声を掛けるほか、若

い世代の人たち
にも子どもを連
れて積極的に講
参拝に参加して
もらえるように
と、小学六年生
までの参拝旅行
費を安く設定す
るなど、講員増
加の為の工夫を
重ねています。

元々農業を営
む講員が大多数
だった為、参拝は種蒔きなどで忙しくなる前の三月に行っており、
近年は三月の第一日曜日を講参拝日と定め、農家以外の方も多く参
加しています。笠間稲荷高柳講では、昇殿祈禱が終わるまでは飲酒
をしない、また参拝前に親族等にご不幸があった講員は社務所に入
る前にお祓いを受ける、といった決まりがあり、それらを遵守する
ことで参拝後はより一層気持ちが良いというお話を伺いました。

役員の方々は、毎朝ご自宅の神棚に手を合わせ、一日・十五日
には神を替えるなどして稲荷大神様をお祀りされています。「自分も
家族も健康に過ごし、病気をしないことにいちばんの御神徳を感じ
る」「笠間稲荷神社を信仰した分しっかりと御加護を感じる」といった
稲荷大神様への感謝の思いをたくさんお聞かせ頂きました。毎年、
七十五歳以上の講員が三十名以上参拝し、稲荷大神様のお力を戴い
て日々元気に活躍されているとのことでした。

酒巻講元を中心に、世話人の皆様のご助力により御神縁を結ばれ
ました講員皆様方のご多幸と笠間稲荷高柳講のさらなるご発展をお
祈り申し上げ、次回のご参拝を心よりお待ちしております。



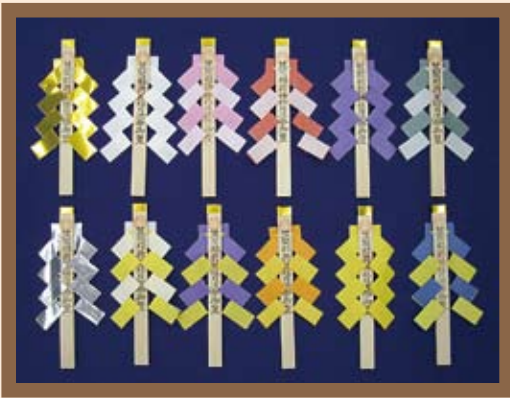
▲お忙しい中、取材当日にお集まり頂きました役員の皆さん。
前列左より、世話人・渡来武さん、講元・酒巻肇さん、会計・
高山庄さん。後列左より、世話人・伊原邦夫さん、元副講元・
大久保正雄さん、副講元・酒巻明さん。15名の役員の皆様が、
毎年1月に世話人会を開催し、講中参拝の準備等にご尽力い
ただいております。

笠間稲荷神社 ご案内

月詣り

当社には「月詣り」をされる崇敬篤い方が大勢いらっしゃいます。

月詣りとは、月毎に大神様の御加護を受け、前月よりの平穏無事を感じ、新たな護神徳を頂くことであります。月詣りの方には神苑に咲く花を表した御幣を授与しております。どの月からでも始めて頂けますので、ご希望の方は受付までお申し出下さい。



祈祷案内 交通安全

お車に乗られる方、小さなお子様が安全に過ごされますよう、当社では交通安全の御祈祷を行っております。

また、社務所脇の祓戸神社において、お車のお祓いも行っております。大神様のご加護をいただきまして、大切なお車や同乗者の方々に災いがありませんよう、新車購入時や車検の際など、節目となるときに当社で車のお祓いをされてはいかがでしょうか。

(初穂料 五千円より)

当社ホームページからもご祈祷のご予約が頂けます。

◎ホームページ

<http://www.kasama.or.jp/>

笠間稲荷神社

検索

奉納募集

当社では威儀物や祭典に用いられる祭具のご奉納をお受け致しております。ご奉納頂ける方は笠間稲荷神社社務所までご相談下さい。ご奉納頂いた方の御名は末永く顕彰させて頂きます。また、これまでにご奉納頂きましたご崇敬者の皆様に厚く御礼申し上げます。



◎奉納者芳名

「絵画 宇迦之御魂神」

鳥居 禮 殿

神社のいろは

Q 笠間稲荷神社の御本殿のうしろにある小さなお社は何ですか？

A 笠間稲荷神社に付属する神社で、末社といえます。向かって左の小さなお社が山倉神社(高皇産靈神・建速須佐之男神・大国主神)、大きなお社は四つある扉の左より栗島神社(少彦名神)、菅原神社(菅原道真公)、白山神社(菊理媛命・伊邪那岐命・伊邪那美命)、月読神社(月読尊)です。当社へご参拝の折は、どうぞ御本殿うしろの末社へもお詣り下さい。

Q 末社の菅原神社について教えてください。

A 菅原神社(天満宮)にお祀りされているのは、学問の神様・菅原道真公で天神様とも呼ばれます。道真公の生前のご事跡から、とりわけ学業成就や受験合格の神様として篤い信仰を集めています。毎年一月二十五日に初天神祭を斎行しています。

Q 末社の栗島神社の前に豆腐が置いてあり、針が刺さっているのを見かけました。あれは何ですか？

A 二月八日は針供養の日です。昔から、折れたり曲がったりして使用できなくなった針を豆腐や蒟蒻など柔らかいものに刺して感謝・供養し、また裁縫技術の上達等を祈願する日です。当社でも二月八日は針供養祭を斎行し、医薬・裁縫の神様の少彦名神をお祀りする栗島神社前及び拝殿前には豆腐を備え、ご参拝の皆様のお受けしております。



- 1 1月25日は菅原神社前で初天神祭を斎行しております。
- 2 2月8日に栗島神社前に針供養の為の豆腐が備えられます。
- 3 8月1日午後3時より、末社前にて末社祭を斎行しております。
- 4 中秋の日に月読神社で中秋祭を斎行しております。すすき、団子をお供えいたします。平成26年は9月8日に斎行致します。

その他、ご質問等ございましたら、
神社社務所までお問い合わせ下さい。

笠間稲荷神社社務所

☎0296(73)0001



笠間稲荷神社

社報「胡桃」No.32 平成25年12月発行 発行所／笠間稲荷神社社報編集委員会 茨城県笠間市笠間1番地
電話0296(73)0001(代) FAX0296(73)0002 テレホンサービス0296(73)0003ホームページ<http://www.kasama.or.jp/>
Eメールinfo@kasama.or.jp 編集発行人／塙 東男 本誌の写真、イラストレーション、記事の無断転載を禁じます。